

②④ 褐炭借区開坑増区願

*奥書・ 絵図有

明治20 (1897) 年9月26日

この史料は、明治17年に橋本萬造が寺尾村小塚において褐炭（亜炭）の鉱区拡大を願い出た史料です。

明治初年、片岡郡寺尾村の田島元七が乗附村蛇場見で亜炭層を発見したのが、高崎亜炭産業の始まりと言われ、明治10年代には観音山丘陵一帯で盛んに亜炭の採掘が行われています（高崎炭田）。亜炭は、石炭より安価であったことから、富岡製糸場や新町屑糸紡績所など洋式器械による製糸工場にとって不可欠なエネルギーとなり、その発展を支えました。

高崎市・片山紀道家文書 P9311 No. 583

【史料②④】

褐炭借区開坑増区願

群馬県上野國片岡郡寺尾村

平民農

橋本萬造

群馬県上野國片岡郡寺尾村

甲区字小塚 四百五拾貳坪

乙区字小塚 六百四拾貳坪

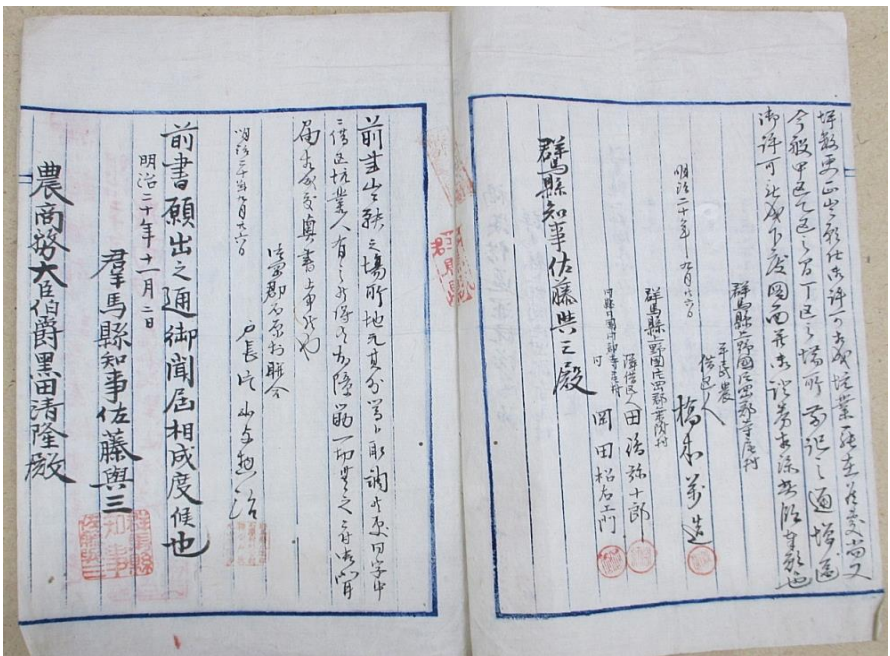
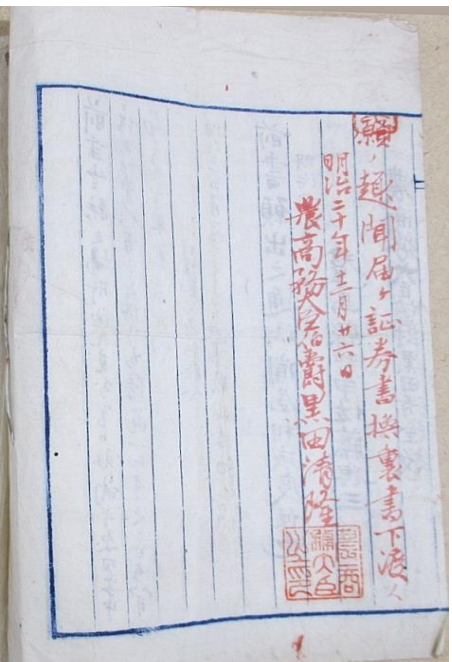
丙区字小塚 五千百五拾五坪

丁区字小塚 貳千八百三拾九坪貳合

官有秣地

合計九千〇八拾八坪貳合

右明治十七年四月、工部省第三号御達しに基づき実測、



坪数更正出願仕り、ご許可相成り、坑業罷り在り候処、尚又
 今般甲区・乙区の間、丁区の場所、前記の通り増区
 ご許可成し下されたく、図面並びにご証券相添え、この段願
 い奉り候なり

群馬県上野国片岡郡寺尾村
 平民農
 借区人
 橋本萬造 [印]

明治二十年九月廿六日

群馬県上野国片岡郡乗附村
 隣借区人 田嶋弥十郎 [印]
 同県同国同郡寺尾村
 同 岡田松右工門 [印]

群馬県知事佐藤典三殿

前書出願の場所地元その外篤と取り調べ候処、同字中
 に借区坑業人これ有り候えども、故障筋一切これ無きにつき、お聞き
 届け相成りたく奥書上申候也

片岡郡石原村連合
 戸長 片山与惣治 [印]

明治二十年九月二十六日

前書願い出の通りお聞き届け相成りたく候なり
 明治二十年十一月二日
 群馬県知事佐藤典三 [印]

農商務大臣伯爵黒田清隆殿